

軽で遠くまで講演

地域医療を支えるがんぼうの風を興そう

明日の豊かな地域医療に向かって

地域医療を支えるがんぼうの風を興そう

～明日の豊かな地域医療に向かって～



主催 遠軽商工会議所
共催 遠軽地区地域医療対策連携会議 (構成: 遠軽町・湧別町・佐呂間町)

平成30年3月、遠軽町役場・民生部長から電話があり、地域医療についての講演要請があった。その後、講演会の主催者である遠軽商工会議所の専務理事と指導課長から詳しい説明を受けた。当会の5月例会で正式に講演の講師を請けることを決定。日程は平成30年パワーポイントトップ画面



120名程の参加者が集う会場で代表・副代表・事務局長が発表。

6月18日(月)午後4時から、場所はホテルサンシャイン、演題は『地域医療を支えるがんぼうの風を興そう』明日の保健福祉に向かって』。

8日、逢坂代表・谷川副代表・阿久津事務局長は午前11時37分北見駅を出発し遠軽に向かった。講演会は定刻に主催者側の挨拶があった。

講演は谷川副代表がトップバッターで「その頃の北見日赤と私たちの動き」を発表した。

『平成20年1月、北見赤十字病院では「至内科医7名退職」のシヨッキングなことがあった。

その頃、私は病院に入院していて、内科の外来待合は照明が消えて、患者の姿もなく寂しいたすまいであった。

その時、現在の会を立ち上げようと決心し、現在に至っている』と話を展開した。

続いて、阿久津事務局長が「風雪に耐えた幾とせ・その足跡をたどる」をパワーポイントの画像を映し出し進めた。

最後に逢坂代表が「明日の豊かな地域医療に向かって」と

北海道新聞オホーツク遠軽紋別
H30・06・22

地域完結型の医療連携重要

市民団体代表が講演

【遠軽】地域医療充実への機運を高めようと、遠軽商工会議所は18日、市民団体「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」の逢坂信治代表らの講演会を町内のホテルで開き、約120人が参加した。



「地域住民が医療を盛り上げ、病院と信頼関係を築いてほしい」と訴える逢坂信治代表

講演会を主催する「地域完結型医療連携」

「地域完結型医療連携」は地域が一つの大きな病院のように、遠軽厚生病院を取り巻く環境▽私たちの経験から地域の人々を取り組めることがらを30分ほど話した。

演題は「地域医療を支えるがんぼうの風を興そう」明日の豊かな地域医療に向かって』。

逢坂代表は、病院や診療所が特長を活かしながら、一つの地域の中で役割分担する地域完結型医療連携の重要性を強調。

「リハビリや救急など、医療のニーズは多様化している。医療従事者の負担を分散させることが退職者を減らし、医師の定着につながる」と述べた。

講演会では谷川勝男副代表、阿久津俊子事務局長も話した。

(高橋智也)

「年金機構意見書」など可決▽遠軽町 定例会は21日、丸瀬布小の耐震改修工事の請負契約締結に関する議案1件と、「日本年金機構の情報セキュリティ対策の見直しを求める意見書」を原案通り可決し、会期を1日残して閉会した。

講演会は定刻を10分程オーバーしたが何とか役目を果たしたと思っている。

公演後、主催者側との懇親会に参加してホテルサンシャインに投宿し、翌日昼に北見に帰着した。



先月7月の天気は1日から7日まで連続の「雨」で、25日まで「雨」の日が15日あった。

29日(日)の第5回北見での思い出づくりの集いの天気は心配で不安な日々が続く。

23日(月)、発表の長期予報で「晴れ時々曇り」と出る。これでもまだ安心出来ない。

当日朝、起きて部屋のカーテンを開けると晴れている。瞬間、これで成功70%と喜ぶ。

13日(金)夕方、第65回北見ほんちまつり舞踊パレードの写真撮影に。

北見赤十字病院の踊り手は吉田院長を先頭に楽しくパレードを熱く繰り広げている。その楽しさが見物の市民に伝わり、また一步、市民と病院との距離は縮まった。(逢坂)